

国際女性デー特別企画 ハッピーギフト
私の生理と向き合おう project
アンケート調査報告書



2023年3月

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

1. アンケート概要

1. 目的

コロナ下で生活困難をかかえる横浜市在住の女性を支援するため、国際女性デー特別企画として、生理用品の提供を行うとともに、アンケートを実施し、生理や生活についての生の声を収集・発表するための資料とする。

2. 実施方法

生理用品のギフト告知ページに google form によるアンケートフォームを設置し、応募時にアンケート調査への回答を必須とした。

3. 対象

横浜市在住、2022年の年収が250万円未満の女性

4. 期間

2023年1月17日～2023年1月31日 第1回

2023年2月10日～2023年2月17日 第2回

5. 有効回答数

重複回答などを削除した結果、382人の有効回答を得た

本企画について

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会や薬樹株式会社、インテグロ株式会社との協働事業として実施した「私の生理と向き合おう project」※1の一環として実施した。

生理用品については、横浜市社会福祉協議会が「ヨコ寄付」事業の一環として寄付を募集し、個人・企業の皆様より集まった約80万円分のご寄付(物品提供も含む※)にて準備し、抽選で265人の方※2に、生理用品(生理用ナプキン半年分、月経カップのいずれか好きな方)を届けた。

※1 私の生理と向き合おう project では、ギフト企画のほかに、生理をテーマとしたイベントや婦人科系の悩みを気軽に相談できる「LINE相談」(薬樹株式会社による)を実施した。

※2 生理用ナプキン半年分については、上限200人を大きく上回る募集があったため抽選となった。月経カップは申込数が上限に至らなかったため申込者全員にお届けした。

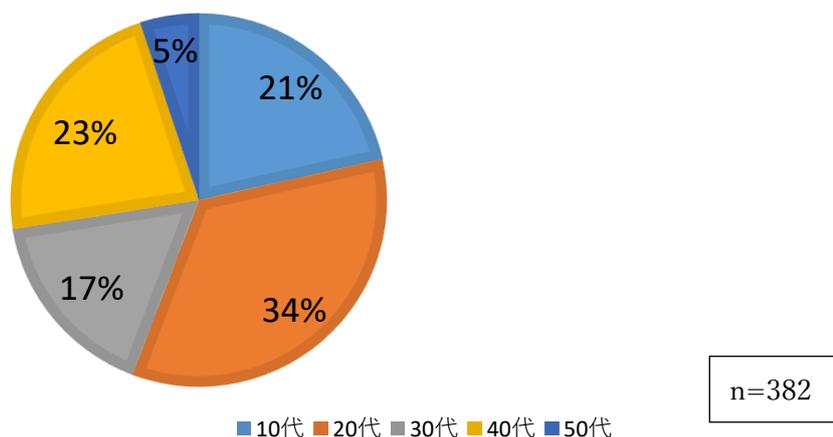
II. アンケート結果

1. 回答者属性について

① 年代

回答者の年代を10代～50代で質問している。その結果をみると、「20代」が最も多く34%であった。10代も21%おり、10代～20代が約半数を占めている。

図表 1：あなたの年代を教えてください

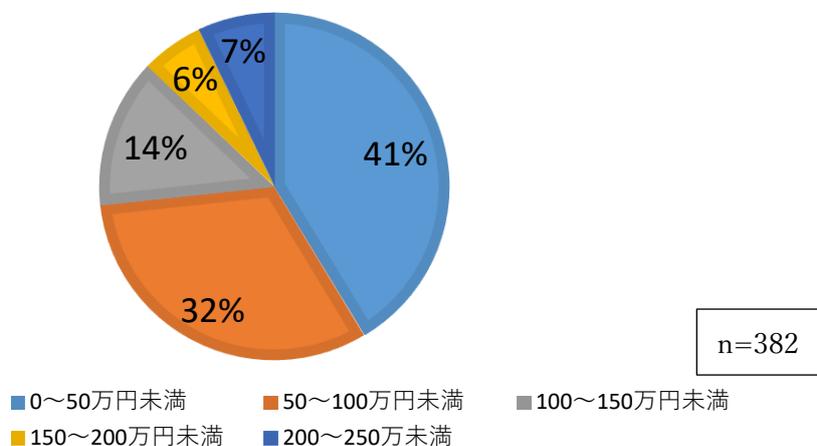


② 2022年の年収（税込み）

回答者自身の年収は、「0～50万円未満」が41%で最も高い。次いで「50万円～100万円未満」(32%)「100万円～150万円未満」(14%)であった。

※今回の企画は、コロナ下で生活困難をかかえる横浜市在住の女性を対象としているため、年収250万円を超える場合は対象外としている。また質問しているのは本人の年収であって、世帯年収ではない。また回答者は学生も含まれている。

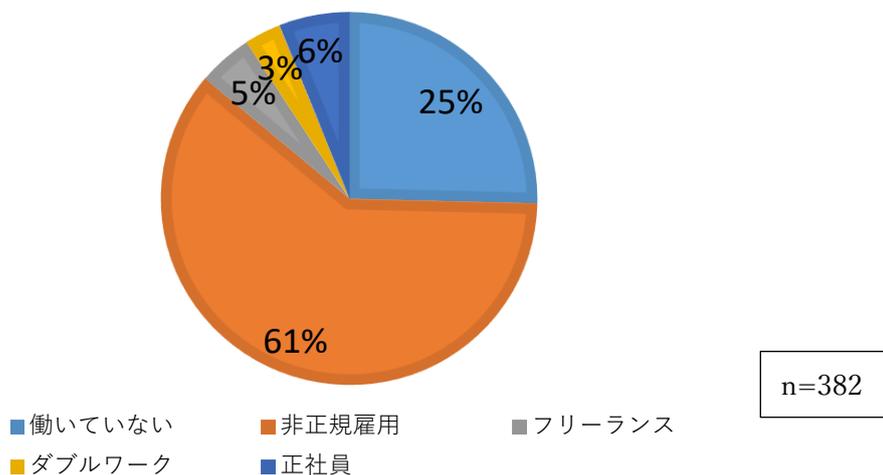
図表 2：あなたの2022年の年収を教えてください。



③ 働いている状況

回答者の働く状況では「非正規雇用」（学生も含む）が61%で最も高く、次いで「働いていない」が25%となっている。これに対して「正社員」は6%と低い。

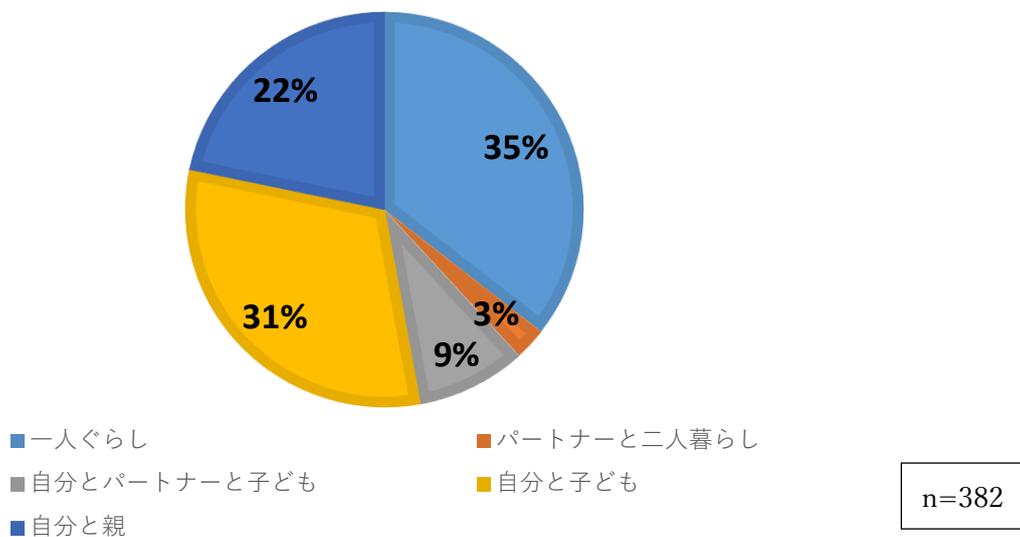
図表 3：あなたの働く状況を教えてください。



④ 世帯の状況

世帯の状況は「一人暮らし」が35%で最も高い。次いで「自分と子ども」（ひとり親）が31%となっている。

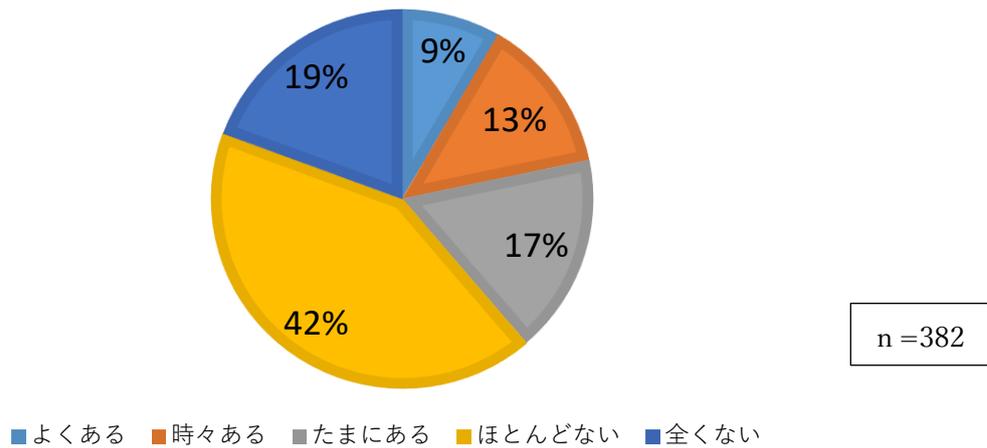
図表 4：あなたの生活している世帯の状況を教えてください。



2. 生理と仕事

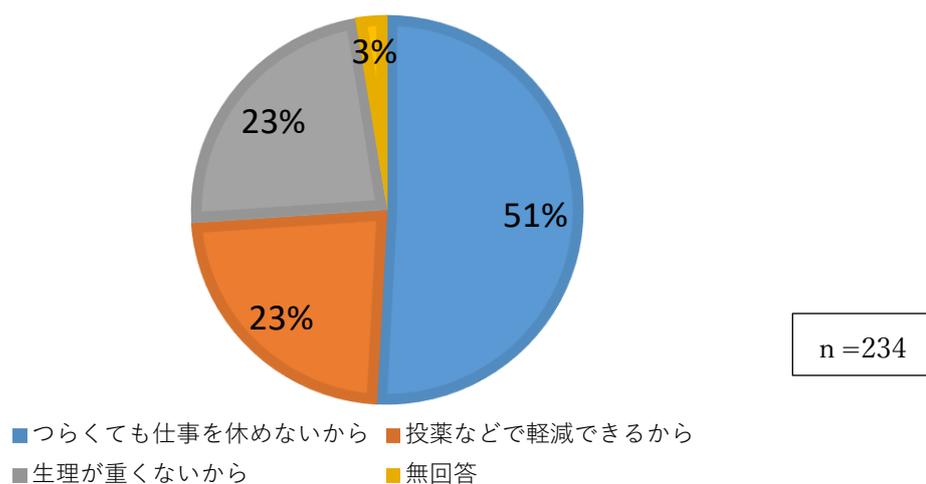
現在の有職・無職に関わらず、これまでの就労経験の中で、生理の時に仕事を休んだ経験や頻度、休んでいない場合はその理由についてたずねた。

図表 5：これまでに生理がつらくて仕事を休んだことはありますか？



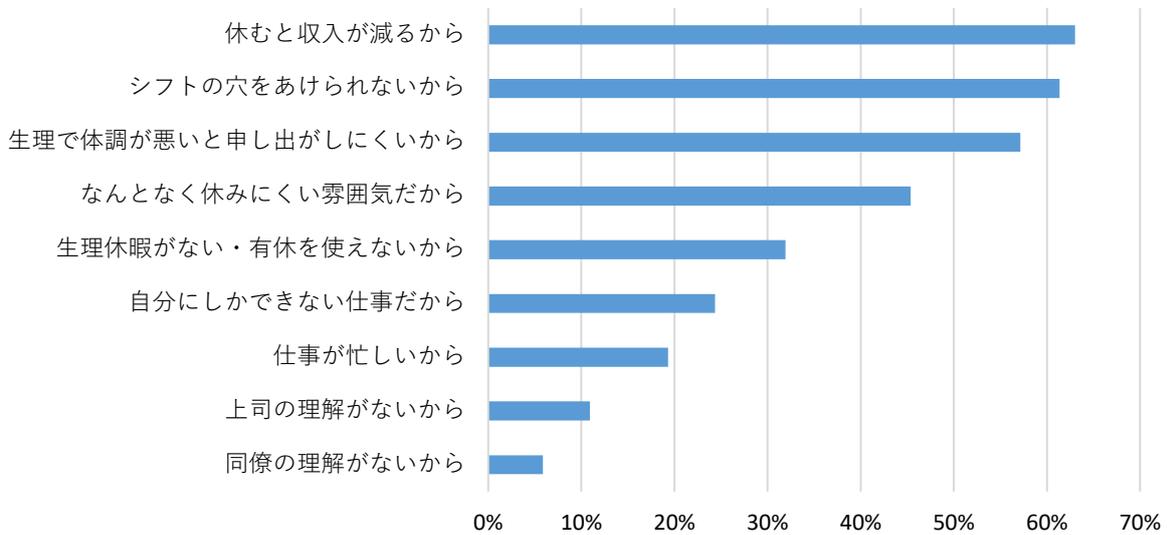
図表 6：最も当てはまる理由はどれでしょうか？

[前の設問で「ほとんどない」「全くない」と答えた方（234人）のみ回答]



図表 7：つらくても仕事が休めない理由は何ですか？【複数回答】

[「つらくても仕事を休めない」と答えた方(119人)のみ回答]



これまでに生理がつらくて休んだ頻度や経験について、「まったくない」「ほとんどない」との回答は61%であった。「よくある」「たまにある」と回答は22%にとどまった。

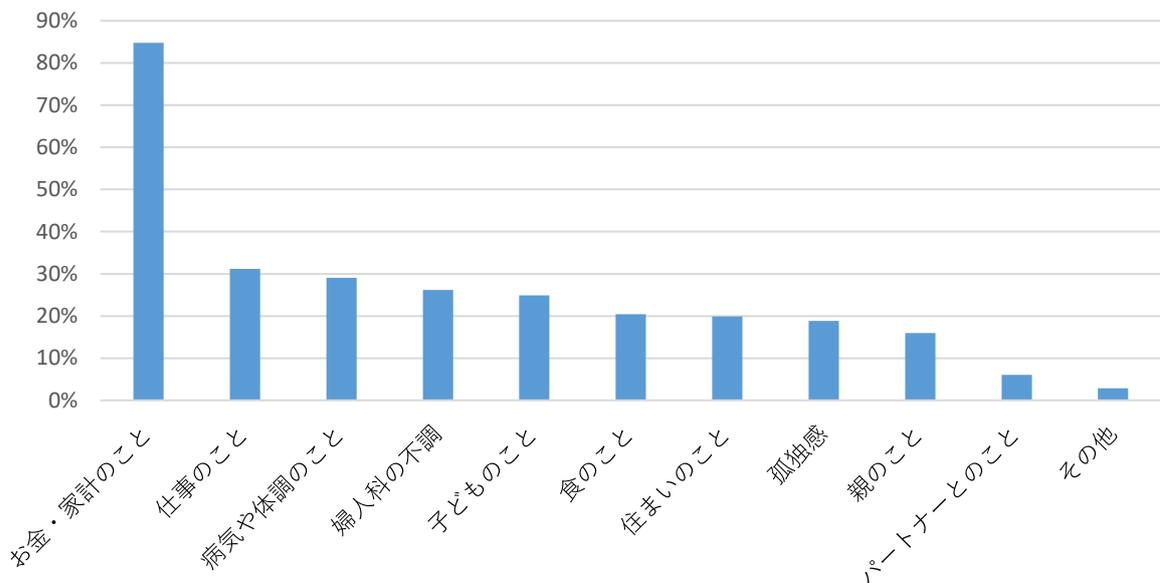
「ほとんどない」「まったくない」と答えた方(234人)に、その理由を聞いたところ、「つらくても仕事を休めないから」との回答が5割を超えた。

さらに「つらくても仕事を休めないから」と答えた方(119人)に休めない理由を聞いたところ、最も多かった回答は、「休みと収入が減るから」という経済的な理由であった。ついで「シフトの穴をあけられないから(職場の人員不足)」「生理で体調が悪いと申し出がしにくいから」「なんとなく休みにくい雰囲気だから」が続き、職場の環境・雰囲気を理由とする回答も目立った。「自分にしかできない仕事だから」という仕事の性質を理由とする回答は2割にとどまった。

3. 現在生活の中で困っていること

生活の中で困っていることは、「お金・家計のこと」が85%で顕著に多い。次いで「仕事のこと」が31%、「病気や体調のこと」、「婦人科系の不調」が続いた。

図表 8：現在生活の中で困っていることは次のどれでしょうか。(複数可)



4. 今後あったらよいと思うサポートや支援

今後あったらよいと思うサポートや支援について、質問した結果、自由記述で以下のような回答が寄せられた。(一部抜粋)

① 仕事について

- ・ ひとり親が正社員になれるためのサポート。
- ・ ブラックな職場や働き方がなくなるような活動やサポート。
- ・ 最低賃金を上げて欲しい。
- ・ 仕事のブランクが長い人が仕事復帰できたお話がお聞きできたらいいなと思います。

② 食や生活用品について

- ・ 子供が多いのである程度まとまった量のお米をサポートしてもらえるとありがたいです。買いに行くのも大変です。

- ・ ティッシュペーパー、トイレトペーパー、衣料用、食器用洗剤等の支援。
- ・ 子供服の支援（お店などで使えるクーポンなど）、子供向けの食べ物の支援、学用品の支援、生活必需品の支援等、冠婚葬祭用服のレンタルなど。
- ・ フードパントリーやこういった消耗品、食品、食材は嬉しいです。
- ・ 長期保存が可能な、精米(レトルトパック含む)、乾麺などの主食、水や麦茶などのペットボトル飲料などの支援。
- ・ 物価高や光熱費値上げに対する支援。
- ・ 給付金がほしい。
- ・ 交通費などの支援。

③ 住まいについて

- ・ 低所得者向けの老後の市営住宅の借り入れの相談ができたら良いです。
- ・ 賃貸住まいでこの先、家賃を払っていけるのか不安です。住む場所のサポートや支援があるといいなと思います。

④ 子どもについて

- ・ 近くに子供食堂など子供が行きやすく色々な方と交流できる場所があると嬉しいです。
- ・ 夕方～夜に家で子供を見守ってくれるヘルパーさん。
- ・ 不登校の子供の送迎支援。
- ・ 貧困の連鎖を止めたいので、子どもの学習サポートがあつたらいいなと思います。
- ・ 教育 宿題サポートなど。

⑤ 生理について

- ・ 生理用品は毎月必ず使用するものだから、また同じようなサポートがあると助かります。
- ・ 生理に関しては何十年と続くので毎月補助があると助かります。
- ・ 夜用の大きい生理用品の支援、サニタリーパンツの支援があると大変助かります。
- ・ 生理ナプキンは使用量が多い上に非常に高いと感じるため、生理ナプキンの配布や公共のトイレに無料のナプキンが置いてあると嬉しい。
- ・ 大学内の一部のトイレで生理ナプキンが設置されていて、この取り組みがもっと多くの場所で広まればいいなと思います。
- ・ ピルの無料化。
- ・ 生理不調の無料検査。
- ・ 小学校での生理用品の無料配布など。
- ・ 公共のトイレで広告を見たらナプキンがもらえる箱をもっと設置した方がよいと思います。
- ・ 公共施設での生理用品の設置を進めてほしいです。また、このような素晴らしい活動をしていることをさらに周知して生理問題について市民全体で取り組めるような雰囲気を作っていただきたいです。
- ・ 生理カップの他に吸水ショーツなどなかなか世間に広まっていないものが支援としてあると試した

後、次の購入に繋がるかと思います。

- ・ これから娘も生理が始まる年齢なので生理用品は助かります。また、子ども向けの性教育をしていただけの場合があると有難いです。
- ・ 生理は耐えればいいものじゃないことへの理解。
- ・ 生理痛による休みを保障してくれるサポート。
- ・ 男性に向けてもっと生理のことを理解してもらえるような勉強会など。
- ・ 低用量ピルについての効用や逆に注意しなければならないことを知りたい。

⑥ 相談の場について

- ・ 落ち込んでいる時にカウンセリングを気軽に受けられたらいいなと思います。カウンセリングを受けようと思ってもお金がなくて受けられなかったり、無料のものは人気で受けられなかったりしたので。カウンセリングサービスの拡充希望です。
- ・ ハードルが低くてどんな人でも質問や相談ができるサポート。ネットの予約システムで空きが確認でき、ネットで自動申し込みでき、相談予約確定ができるなど。
- ・ 婦人科系の悩みについて、気軽に相談できるお問い合わせ先とかがあればいいなと思います。
- ・ 生理のことは人に相談しにくいので、ピルのことなど気軽に相談できる場所があったらいいと思いました。
- ・ 病院に行くまでではないけど、自分の体調で気になることがある時、気軽に相談できる場所や媒体があると嬉しい。
- ・ 精神疾患で障害者雇用のアルバイトです。収入が少なく、親が亡くなった場合に生きていけなくなるため、ライフプランや支援機関を教えてほしい。
- ・ シングルマザーたちが集まってお話しをする会。

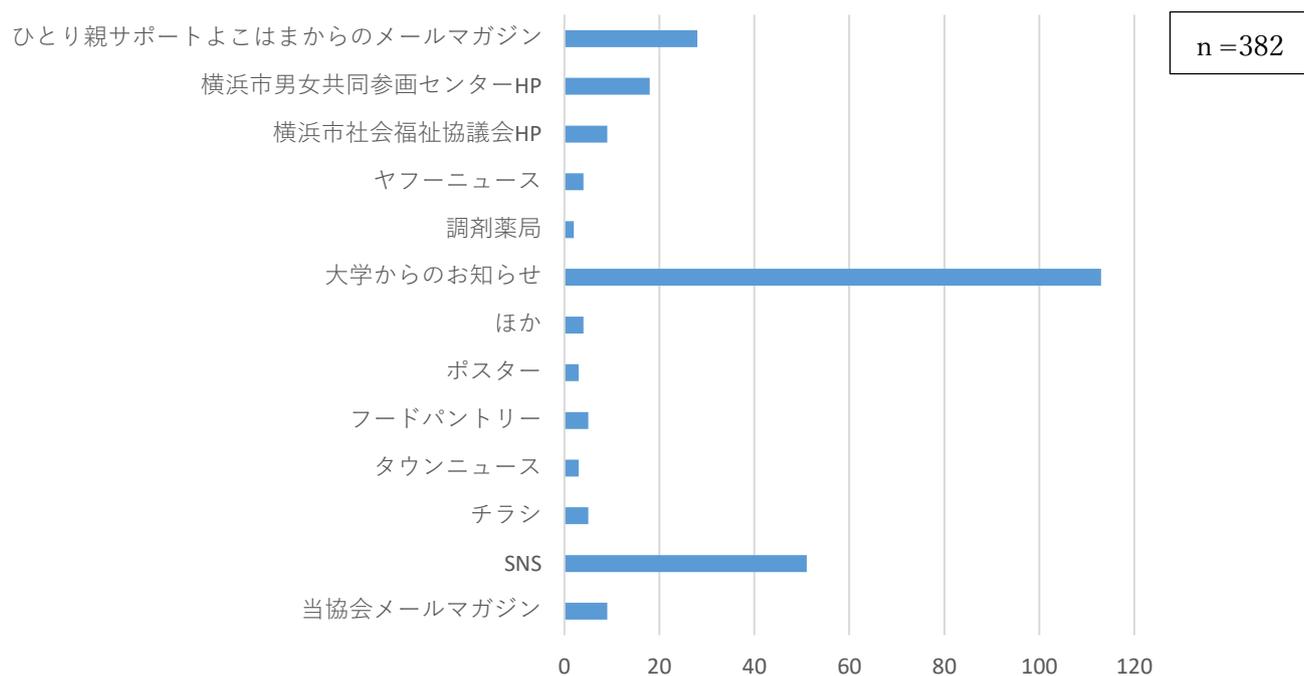
<まとめ>

- ・ 食や生活用品に関するサポートを希望する声が多かった。物価高や燃料費高騰について支援がほしいという声も寄せられた。
- ・ 生理については、今回のキャンペーンの継続を望む声や、学校や公共の施設などのトイレでの生理用品の無料設置を望む声が多数寄せられた。また、婦人科系の悩みについて相談できる場を求める声や、性教育の場を望む声、男性を対象とした勉強会の開催の望む声など、ソフト面でのサポートや社会的理解が進むことを望む声も多数あった。
- ・ また、メンタル面でのカウンセリングの拡充や同じ立場の人同士の交流の機会など相談の場が欲しいという声もあった。

5. 企画の広報経路

今回の企画の広報経路は「大学からのお知らせ」が最も多い、次いで「SNS」が多い。3番目に多いのが「ひとり親サポートよこはま」からの「メールマガジン」である。応募した方に大学生とひとり親が多かったのはこのためか。「SNS」や「メールマガジン」など、インターネットやメール等の電子媒体を通じた広報経路が多かったこともうかがえる。

図表 9：この企画をどちらの情報で知りましたか



◎受け取った方からのメッセージ

生理用品を受け取った方にメッセージを募集したところ、事務局あてに下記のメッセージが届いた。

- ・大学生として一人暮らしを始め、自分で購入することへの抵抗や、ナプキン使用回数を心のどこかで減らしていたので、このような機会がとてもありがたかったです。
- ・少しでも支出を減らしたいので、経済的に非常に助かります。ありがとうございます。
- ・生理のことは女性同士でも話しにくかったりするし、これから先も何十年付き合っていくことなので相談できる場所があるだけでとても心強いです。ありがとうございます。
- ・一人暮らしで生活費をできるだけ抑えて過ごしている中、このようなギフトを頂けて本当に嬉しいです。自分も女性が男性と変わりなく社会に参画していくことができるような社会の実現に貢献する存在になりたいと思いました。ありがとうございました。
- ・月経カップというものを初めて知りました。ナプキン代が毎月かさみ、物価高で値上げになったりで大変でしたので、カップで再利用しながら使えたら大変助かります。
- ・自分ではきっと買えなかったもので、これからが少しでも生活が楽になるかもしれない道具を手に来て、嬉しいです。ありがとうございます。わたしもいつか、贈る側になりたいです。

◎本企画を振り返って（協働事業者による意見交換より）

- ・多数の団体で協働したことにより、それぞれ強みを活かすことができ、取り組みの幅が広がった。一方で本当に困っている人に情報を行き渡らせるためには、さらなる工夫が必要である。
- ・今回、生理用品を受け取った方もいつかは、贈る側になるかもしれない。「支援はいつもお互いさま」。
- ・本企画を通じて、薬樹薬局の窓口や LINE 相談、インテグロのカスタマーサポート、フォーラム南太田のウェブアンケートなど、相談につながるポイントをたくさん作ることができた。
- ・本企画への取り組みを通じて社員が生理やケアについて考える機会が得られた。また、気軽に相談できる場を大切にする一方で、専門家として相談にのることの難しさも認識できた。
- ・月経カップについて、この企画をきっかけに多くの人にとっての選択肢の一つになればありがたい。より快適に過ごせるうえ、数年間繰り返し使えるので、長い目でみれば経済的である。また自分の体のしくみを知り、セルフケアにもつながる。初めての取り組みとして、困難を抱える人に届けられたことは有意義であった。
- ・「生理の貧困」を経済的な課題に限定せずに、自分のからだを知ることや、ケアを選択できること、生理をオープンな話題として語り合える風土を醸成することにつなげていきたい。
- ・今回実施したアンケートでは、「生理について、社会的な理解が必要」との声があった。一方企業に勤める男性から、「部下の婦人科課題についてどのように対応していいかわからない」との声もあり、女性特有の健康課題を社会全体で理解するためのアプローチが引き続き求められる。

《ご協力に感謝いたします》

- ・ 寄付者のみなさま
- ・ アンケートに回答くださった 382 人の女性たち
- ・ 各メディアおよび SNS 等で拡散くださったみなさま



<私の生理と向き合おう project 協働事業者>

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会

薬樹株式会社

インテグロ株式会社

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

<協力事業者>

コメットテクノロジーズ・ジャパン株式会社

報告書制作：公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

男女共同参画センター横浜南

電話：045-714-5911 mkoho@women.city.yokohama.jp